

平成 16 年 度

男女共同参画エンパワーメント事業  
報 告 書



山形市男女共同参画課

# 「日本女性会議 2004 まつやま」=印象記=

黒 沼 貞 志

## 1. はじめに

山形市の男女共同参画推進協議会委員を拝命し1年目の委員活動(男女共同参画都市宣言5周年記念事業実行委員会副委員長、第14回全国都市会議 in ながのへの参画を含む)を通じてようやく自らの役割の可能性と限界を知り、2年目に入り微力ながらの活動をさせて戴いております。

多くの市民の特に女性の方々へ情報収集(男女共同参画社会の現状や課題)・経験取得などの機会をと設定されている(という勝手な解釈です)本事業に、男性の小職が2年続けて参画させていただくことに若干の後ろめたさを覚えつつその理由などに想いを馳せながら参画(参加ではなく「参画」)してきました。

## 2. 会議概観と個別レポート

「集い、語り、ともに拓こう!新たな関係(かたち)」というキャッチコピー?で開催された会議に、物理的制約から前泊・後泊の配慮があり昨年度の「第14回全国都市会議 in ながの」と比べて精神的ゆとりを持って参画できました。

今回の参画申し込みで一番こころが動いたのは、記念講演の講師が山形出身の「渡辺えり子」さんだったことです。まだ氏の生の演劇に接する機会を持っていなかったことから是非話だけでも聞きたいという<想い>が強く、期待して参画してみて多くのことを得ることが出来ました。

### 【1日目】10月22日(金)

(1) 開会式:昨年度の長野でのケースと同様にお国自慢を中心にした歓迎アトラクションという印象

(2) 基調報告:「北京女性会議から10年」  
～行動綱領は、どのように活かされてきたか～  
報告者:内閣府男女共同参画局長

名取 はにわ氏

\* '95北京女性会議のサマリー

・190カ国5,000人の参加

⇒ '99の「基本法」◎日本に繋がった

・キーワード:

◇ジェンダー(社会的、文化的に形成された性別に敏感な視点)⇒日本では言葉の誤認・誤使用が散見されている

◇女性のエンパワーメント

◇多様、多方面とのパートナーシップ

・行動綱領とその12の戦略目標

\*男女の合理的区別と差別の峻別が重要

⇒筋力差、体力差を隠れ蓑にしない

以上、「男女共同参画」から少子高齢多老化時代の「個性差を活かした老若男女協働」へという小職の認識を改めて強くなりました。

(3) シンポジウム:気づこう・築こう、わいわいシンポ「男女共同参画社会の今、そしてこれから」

コーディネーター:樋口 恵子氏(評論家)

シンポジスト:岩男 寿美子氏(武蔵工業大教授)、瀬地山 角氏(東大大学院助教授)、竹信 三恵子氏(朝日新聞社生活部記者)

\*基本法(ハード)は有るがしくみ(ソフト)が無く基本法が活かされていない

⇒自明と思います

\*市内の高校生は次の「女性のチャレンジ支援」を殆ど知らない

・縦(管理職などの職制)へのチャレンジ

・横(職業採用制約:例えば航空管制官・海上保安官)へのチャレンジ



・戻り（子育て離職からの再就職）へのチャレンジ

ここで、福岡県、東京都の施策事例（省略します）の紹介があった

⇒ 小職はこれに加えて四つ目の項目、即ち「起業へのチャレンジ」が抜けていると思います

\* 壇上にて参画した高校生への質問で、大半の高校生は将来「共働き」をしたいと答えていた

\* 年間自殺者数：交通事故死者数の3倍（3万人強）で7割が40~50歳台しかもその8割が男性

・働き盛りの男性への負荷が大きい  
・家庭が男性の働きのみでは維持出来なくなっている

⇒ 共働きが出来る環境整備

\* 期待値が50~70%というメディアの世界でも基本法が活かされていないのが現状

・女性の採用が増えているがその内容は非正社員の増加（十数%）

⇒ これはメディアに限ったことではなく社会全体の傾向であり「社会経済システムのパラダイムシフト」への認識不足を感じました

\* 社会が変わるためには2段階が必要

・第1段階は「制度」の変更  
・第2段階は「しくみ（ソフト）」

\* 社会的ニース（経済面）としても「共働き」を避けて通れなくなる

・男性の給料減少を女性の仕事とその給料アップで補って「共働き」による合わせた給料で生活を維持せざるを得ない社会の到来

・しかし、共働き家庭の家事・育児の分担は95%が女性という現実

⇒ 英国の例：「家族」「仕事」「地域」等々のバランス（均等）を維持できた人が「市民（シティズン）」



\* <これからの10年>：

・女性の経済力のアップ（給料の格差是正）：

◇女性が稼がないと男性も休めない（「仕事」）

◇男性も家に戻れない（「家族」）

◇男性が地域活動にも参加できない（「地域」）

・育児休業の使用の徹底とその隠れた被害からの保護（非正社員も含めて）

・壇上の高校生の意見：9割以上が将来子供を持ちたい（その9割が2人まで）、

9割が「男女共同参画社会」を望んでいる

\* まとめ

・日本人女性初のオリンピックメダリスト人見絹枝への「男女」というバッシングに対する彼女の言葉 = 私への非難は甘んじるが後に続く人々には言わせない =

・男性&人類にとって<女性の幸福>を考えないのは「伝統と文化」に値しない

(4) 交流会・俳句食談会（型どおりの交流会に参画してのコメント）

\* 多くの参加者間の交流の機会損失という印象

⇒ 地区単位 or テーブル単位などによる名刺交換タイムなどのような知恵を絞って欲しい

【2日目】10月23日（土）

(1) 分科会：第8分科会 環境A（講演会& パネルディスカッション：調和と共生～人間の命の源の水～）

\* 全体を通じて大きな収穫無し ⇒ 企画の力不足、コーディネーターの力量？

\* 日本の水は自給しているという「幻想」への視点不足が感じられた。つまり、

・現時点で輸入している食糧の生産に使用している「水の量」への視点

・食料自給率低下を支えてくれている海外の輸出国が20年先には人口増加による自国への供給で日本への輸出など出来なくなる

## 可能性への視点

- \*各分科会の成果発表の場が考えられていない点は参画者にとって消化不足でした。

### (2) 記念講演：「女性と平和」

～わたしにできること～

講師：渡辺えり子氏（演出家・劇作家・女優）

- \*流石、演出家・劇作家・女優です……。話の内容、手話通訳者を巻き込んだその進め方、御自身の日々日常の話題をモチーフにする等、聴衆を全く飽きさせることなく1時間半があつという間に経過したという印象。一度氏の劇場に足を運びたいと思いました。

- \*話の中で紹介された様々な話題・事例は紙面に書き切れませんので、頭に強くインプットされたポイントの列記とします。

- ・イラクから演劇を招聘しそのインタビューで感じたこと：「個人のことをアピールする、個人の考えを言う」ことが許されていない人がいる現実

- ・日本でも類似現象が出てきている（以下一例）

- ◇連載誌書評にもイラク戦争に関する内容・テーマを入れられなくなってきている

- ◇広島でさえも「平和教育・性教育」に規制が入ってきている 心ある先生は辞めていく

- ◇東京都では君が代を歌わない先生は弾かれる

- ・これらの現象に危機感を持たない平和ボケからくる【想像力の欠如】に危機感を持っている

- ・男は「頭は革新でも本音は古い」⇒ 戦争は必要悪（絶対無くならない）と言う

- ・男は論理で生きる生き物 ⇒ 戦争を止めさせられるのは「女性」

- ・【命の連鎖】の持続は子供を真っ当な大人にしていくことで可能になる

・「できることから何かをしないと」という想いで本日もここにいます

### 3. 最後に一言

日頃仕事柄情報収集に務めているつもりでも、「まだまだ」という自戒を喚起させられた2日間でした。

渡辺えり子氏の「できることから何かをしないと」という言葉に「それぞれの立場で」という前置きを付ければ、自分に置き換えてみても誰でもその一歩が踏み出せるのではという「想い」を強くしています。

以上